

		116	8	14
沖縄	中央	35	20	7
	南部	17	1	4
	ゴザ	24	3	3
	名護	24	1	9
		100	25	23
合計		7490	763	1329



寺尾先生

平成 11 年 9 月 10 日

各都道府県 }  
                  }  
                  } 長 殿  
各市町村区 }

厚生科学研究補助金「国民の代表集団による高齢者の  
ADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究」

主任研究者 上島 弘嗣

この度、平成 11 年厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）の助成を受け、別紙の通り、「国民の代表集団による高齢者の ADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究（NIPPON DATA）」研究を行うことになりました。

昭和 55 年（1980 年）循環器疾患基礎調査実施後の生死の把握、もしくは移動の時期及び死亡時期に関する調査を住民票（除票）で行っています。

つきましては、実施計画書の研究者名簿の各研究員を通じて貴職所管部局に協力依頼がありました節は、よろしくお取り計らい頂きますようお願い申し上げます。

「長寿科学総合研究事業研究者名」

・主任研究者

上島 弘嗣 滋賀医科大学福祉保健医学講座教授

・分担研究者

飯田 稔 大阪府立成人病センター集団検診第1部部長

上田 一雄 九州大学医療技術短期大学部教授

岡山 明 岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座 教授

笠置 文善 財団法人放射線影響研究所統計部副主任研究員

児玉 和紀 広島大学医学部保健学科健康科学基礎看護学講座教授

澤井 廣量 社団法人日本循環器管理研究協議会 理事・事務局長

斎藤 重幸 札幌医科大学医学部 内科学第二講師

柴田 茂男 女子栄養大学臨床栄養学研究室教授

坂田 清美 和歌山県立医科大学公衆衛生学助教授

堀部 博 椋山女学園大学生生活科学部食品栄養科栄養保健学研究室教授

菱輪 眞澄 国立公衆衛生院疫学部部長

寺尾 敦史 高知県中央東保健所所長

中村 好一 自治医科大学保健科学講座 教授

・顧問

飯村 攻 札幌鉄道病院顧問

柳川 洋 埼玉県立大学副学長

・事務局

喜多 義邦 滋賀医科大学福祉保健医学講座助手

平成 年 月 日

殿

長寿科学総合研究事業  
国民の代表集団による高齢者のADL、生活の質低下の予防  
に関するコホート研究班

住民票（除票）の交付について（申請）

私達は、長寿科学総合研究事業 国民の代表集団による高齢者のADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究として、厚生省の昭和 55 年度循環器疾患基礎調査受診者のフォロー調査を実施しております。対象者につきまして、現時点での生死の確認を行うために、住民票もしくは除票による生死の確認を行っております。つきましては、住民基本台帳 12 条に基づき、住民票（除票）の交付を申請いたします。

記

#### 1. 目的

本研究の目的は、厚生省の昭和 55 年度循環器疾患基礎調査受診者の現在の生死・健康状態を追跡することにより、基礎調査の受診データと死亡・寝たきりの状況の関連を明らかにし、寝たきり・死亡の予防策の構築を行うことにあります。具体的には住民票を手掛かりに対象者が貴町村に在籍されているのか、転出されているのか、または死亡されているのかを確認し、基礎調査の受診データと平成 11 年時の生死、死因の関係を明らかにすることが必要です。

また人口動態データベースを参照することにより、死因の同定をする許可を申請中です。

#### 2. 研究者の氏名

長寿科学総合研究事業 国民の代表集団による高齢者のADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究班

（代表）調査班長 上島 弘嗣（国立滋賀医科大学福祉保健医学講座 教授）

### 3. 住民票（除票）を必要とする対象者

別紙を参照してください。

### 4. 調査事項の利用範囲

本調査により知り得た事項は、学術研究目的のために利用する他には一切使用しません。また、調査対象者氏名、住所など交付された書類により知り得た内容については、如何なる者にも漏洩しません。

### 5. 交付していただいた書類の最終処理

- |              |                        |
|--------------|------------------------|
| (1) 保管場所     | 滋賀医科大学福祉保健医学講座教室内      |
| (2) 保管責任者    | 上島弘嗣（滋賀医科大学福祉保健医学講座教授） |
| (3) 保管期間     | 研究終了後1年以内              |
| (4) 保管期間後の処置 | 保管期間終了後直ちに焼却           |

### 6. お願い

除票の保管期間は5年とされていますが、もしそれ以前のものにつきましても調査可能なら交付していただければ幸かと存じます。

### 7. 手数料

郵便為替で 円同封しております。

### 8. 照会および返送先

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学福祉保健医学講座 上島弘嗣

電話 077-548-2191

以上

## 住民基本台帳法

### (住民基本台帳の閲覧)

第十一条 何人でも市町村長に対し、住民基本台帳の閲覧を請求することができる。

- 2 前項の請求は、請求事由その他自治省令で定める事項を明らかにしてしなければならない。ただし、自治省令で定める場合には、この限りでない。
- 3 市町村長は、第一項の請求に対し、政令で定めるところにより住民基本台帳に代えて、住民基本台帳又はその一部の写し（第六条第三項の規定により磁気テープをもって住民票を調製することにより住民基本台帳を作成している市町村にあっては、当該住民基本台帳又はその一部に記録されている事項を記載した書類。第四十四条において同じ。）を閲覧に供することができる。
- 4 市町村長は、第一項の請求が不当な目的によることが明らかなきとき又は住民基本台帳の閲覧により知り得た事項を不当な目的に使用されるおそれがあることその他の当該請求を拒むに足りる相当な理由があると認めるときは、当該請求を拒むことができる。

### (住民票の写し等の交付)

第十二条 何人でも、市町村長に対し、住民票の写し（第六条第三項の規定により磁気テープをもって住民票を調製している市町村にあっては、当該住民票に記録されている事項を記載した書類。以下同じ。）又は住民票に記載をした事項に関する証明書（以下「住民票記載事項証明書」という。）の交付を請求することができる。

- 2 前項の請求は、請求事由その他自治省令で定める事項を明らかにしてしなければならない。ただし、自治省令で定める場合には、この限りでない。
- 3 市町村長は、第一項の住民票の写しの交付の請求があったときは、特別の請求がない限り、第七条第四号、第五号及び第九号から第十三号までに掲げる事項の全部又は一部の記載を省略した写しを交付することができる。
- 4 市町村長は、第一項の請求が不当な目的によることが明らかなきときは、これを拒むことができる。
- 5 第一項の請求をしようとする者は、郵便により、同項の住民票の写し又は住民票記載事項証明書の送付を求めることができる。

### 第3章 「ADL・生活の質」の追跡調査

#### 1. 対象

前章に述べた生死の追跡調査で「在籍（1980年調査時と同一の住所に居住している）」が明らかになった対象者のうち、1999年9月1日現在満65歳以上の全員を「ADL・生活の質」調査の対象とした。

#### 2. 方法

「ADL・生活の質」調査は1999年11月1日に全国222カ所の該当保健所に対して、調査協力の依頼文を発送し調査を開始した。調査票の送付は、承諾を取れた保健所に対して、同年11月15日から順次実施していった。調査開始までの経過、保健所とのやり取りは、チャート（図1）にして表わした。

##### 2-1 全国保健所長会からの調査協力依頼

全国保健所長会で「ADL・生活の質」調査主旨の理解を得、会の席上で、班長から説明し所長会として同意を得、さらに全国保健所長会長名で、各保健所長宛に、調査協力の依頼文を出して頂いた（資料3-1）。

##### 2-2 ADL・生活の質調査の概略と調査依頼

別紙に示すような、調査依頼文（資料3-2）と、調査の概略（資料3-3）を作成し、該当保健所に対して調査依頼を行った。まず、調査の主旨を説明し、調査協力の意向をはがき（資料3-4）で問い合わせた。次に、より詳細な資料として、該当保健所に対して、それぞれの対象人数、対象地区、調査票（資料3-5）、追跡調査の意義を記した「厚生指針」を送付した。

調査の依頼は、1999年11月1日から始めた。当初、保健所の承諾率は必ずしも高いとはいえず、各班員を地区ごとに分け、班員からも各保健所に、調査の意義と主旨を説明し、調査協力を要請した。調査方法も、当初は保健所員の訪問面接調査で実施する予定だったが、最終的には、訪問調査を原則とするが、電話による調査、郵送調査も可として柔軟性を持たせた。返答のない保健所に対しては、再度、調査協力の依頼を事務局から発送した（資料3-6、資料3-10）。その結果、最終的に222保健所中、202保健所から調査協力の返事を得た（資料3-11）。

##### 2-3 調査マニュアル

調査を協力する保健所に対して、調査実施のお願い（資料3-7）、調査マニ



マニュアルを送付（資料 3-8）し、このマニュアルに沿って調査を進め、データの質の統一化をはかった。また、対象者に対して、「みなさまへ」（資料 3-9）という調査依頼文を班長名と各保健所長名で出し、対象者に対する調査協力の依頼を行った。

### 3. 結果

現在も調査は進行中であるが、2000年2月10日現在の進行状況について報告する。

表 3-1 に、性、年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率を表わした。19年の追跡を行った結果、男性 1,336 人、女性 2,058 人が「ADL・生活の質」調査の対象者であり、このうち男性 1,127 名（84.4%）、女性 1,753 名（85.2%）から回収できた。年齢階級別には、男女とも 70～74 歳群が最も高かった。

表 3-2 に、地区毎にみた「ADL・生活の質調査」の対象者と回収率を示した。中国四国地区の回収率は、男性 73.5%、女性 72.0%と低く、次いで東京都の回収率は男性 72.1%、女性 75.7%であった。北海道や東北地方、関東地区の東日本の回収率が高く、九州沖縄地区を除く、西日本地区の回収率が低い傾向がみられた。

表 3-3 に性、年齢階級別にみた調査の可、拒否、不明の状況を表した。男性 83.9%、女性 82.0%が調査に協力した。年齢階級別には 80 歳までは 80%以上が調査できたが、85 歳以上では、男女とも 70%前後と低かった。調査拒否は全体で男性 3.2%、女性は 3%であった。

表 3-4 に調査形態を性、年齢階級別にみた。訪問による調査は男女とも約 75%行われ、電話による調査は約 10%であった。年齢が上がるに従って、訪問調査の割合が減少し、電話による調査、訪問・電話以外の方法による調査が多くなっていた。

表 3-5 に家族形態の分布を表した。男性全体では高齢者夫婦の世帯が高く、ついで三世代同居であった。女性は三世代同居が高く、次に二世帯同居であった。年齢階級別には、男性は 65～69 歳群では高齢者夫婦世帯が多いが、高齢になるに従って三世代同居が高くなっていた。女性では 65～69 歳群では高齢者夫婦世帯が 34%と多いが、75 歳以上では 15%以下に半減し、三世代同居が高くなっていた。85 歳以上では、男性の高齢者夫婦世帯は 25%であったが、女性は 4%と低い値を示した。この割合の差は、男性と女性の平均寿命に違いがあることと、男性の方が年上の夫婦が多いためと考えられる。

表 3-6 から表 3-11 まで、高齢者の日常生活動作能力（ADL）の状況を性、年齢階級別に表わした。どの ADL 項目においても、年齢が上がるに従って自立

の割合が低くなり、半介助、全介助の割合が高くなっていった。特に屋外歩行では、年齢による差が大きかった。

表3-12に、東京都老人総合研究所活動能力指標（都老研）の状況を表わした。質問の13項目について各項目が出来るかどうかを二者選択で回答した。年齢が上がるに従って、「はい」と回答した者の割合は低くなっていった。特に、「貯金の出し入れができるか」、「年金等の書類が書けるか」、「家族や友人の相談にのるか」、「病人を見舞うか」という項目で、年齢による差が大きかった。表3-13に、都老研指標から13点を満点とした時の、性、年齢階級別にみた平均値を示した。男女とも年齢とともに点数は低くなっていった。特に85歳以上では65から69歳群の半分の点数になっていた。年齢とともに活動指標が低下しているのが分かった。

表3-14に調査時における、満足感の状況を示した。満足、まあ満足と感じているものは、男女とも約80%であり、年齢による差は見られなかった。表3-15に調査時における、幸福感の状況を示した。65歳から84歳群では男女とも約80%が幸福と感じていたが、85歳以上では60%しか幸福と感じていなかった。表3-16に生きがいについての状況を示した。男女とも年齢とともに生きがいを感じている者の割合は低くなっていった。全体では、生きがいがある、時々感じると回答した者は、80%いた。

表3-17に脳卒中、心筋梗塞、大腿部頸部骨折、その他の下肢骨折の既往者の割合を示した。男性の脳卒中既往者の割合が、74歳群までは6%であったが、75以上で13%以上に高くなっていった。女性の脳卒中既往者の割合は、年齢とともに高くなっていったが、男性ほどではなかった。心筋梗塞の既往者の割合は男女とも3%~5%であった。大腿部頸部骨折は女性の85歳以上で10%と急に高くなっていった。その他の下肢骨折は男女とも6%~8%であった。

表3-1 性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	440	404	225	160	107	1336
	調査回収者	362	350	193	130	92	1127
	回収率(%)	82.3	86.6	85.8	81.3	86.0	84.4
女性	在籍者	588	509	456	252	253	2058
	調査回収者	508	446	380	216	203	1753
	回収率(%)	86.4	87.6	83.3	85.7	80.2	85.2

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-1 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
:北海道地区

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	29	20	10	6	4	69
	調査回収者	22	19	9	6	4	60
	回収率(%)	75.9	95.0	90.0	100.0	100.0	87.0
女性	在籍者	26	18	18	9	5	76
	調査回収者	24	17	18	9	5	73
	回収率(%)	92.3	94.4	100.0	100.0	100.0	96.1

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-2 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
:東北地区

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	51	39	31	16	8	145
	調査回収者	41	37	31	13	8	130
	回収率(%)	80.4	94.9	100.0	81.3	100.0	89.7
女性	在籍者	70	63	61	29	34	257
	調査回収者	63	57	55	27	31	233
	回収率(%)	90.0	90.5	90.2	93.1	91.2	90.7

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-3 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
:関東地区(東京都除く)

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	78	67	29	22	12	208
	調査回収者	63	64	26	17	12	182
	回収率(%)	80.8	95.5	89.7	77.3	100.0	87.5
女性	在籍者	98	81	59	27	24	289
	調査回収者	82	78	50	26	22	258
	回収率(%)	83.7	96.3	84.7	96.3	91.7	89.3

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-4 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
;東京都

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	24	21	9	3	11	68
	調査回収者	19	13	7	3	7	49
	回収率(%)	79.2	61.9	77.8	100.0	63.6	72.1
女性	在籍者	44	18	24	8	13	107
	調査回収者	33	12	22	5	9	81
	回収率(%)	75.0	66.7	91.7	62.5	69.2	75.7

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-5 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
;中部地区

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	101	100	49	45	25	320
	調査回収者	87	97	39	40	20	283
	回収率(%)	86.1	97.0	79.6	88.9	80.0	88.4
女性	在籍者	143	118	116	78	64	519
	調査回収者	131	107	102	73	52	465
	回収率(%)	91.6	90.7	87.9	93.6	81.3	89.6

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-6 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
;近畿地区

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	57	54	27	27	15	180
	調査回収者	46	39	21	20	13	139
	回収率(%)	80.7	72.2	77.8	74.1	86.7	77.2
女性	在籍者	84	72	65	32	35	288
	調査回収者	68	57	44	25	28	222
	回収率(%)	81.0	79.2	67.7	78.1	80.0	77.1

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-7 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
;中国四国地区

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	49	50	33	14	16	162
	調査回収者	39	32	26	9	13	119
	回収率(%)	79.6	64.0	78.8	64.3	81.3	73.5
女性	在籍者	61	61	54	32	38	246
	調査回収者	46	45	40	22	24	177
	回収率(%)	75.4	73.8	74.1	68.8	63.2	72.0

年齢は、1999年時の年齢

表3-2-8 地区別、性年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の回収率(2000年2月10日現在)  
;九州沖縄地区

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	在籍者	51	53	37	27	16	184
	調査回収者	45	49	34	22	15	165
	回収率(%)	88.2	92.5	91.9	81.5	93.8	89.7
女性	在籍者	62	78	59	37	40	276
	調査回収者	61	73	49	29	32	244
	回収率(%)	98.4	93.6	83.1	78.4	80.0	88.4

年齢は、1999年時の年齢

表3-3 性、年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の状況

							(%)
		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	調査可	85.4	85.4	80.3	86.2	77.2	83.9
	拒否	4.4	3.4	3.1	1.5	1.1	3.3
	不明	10.2	11.1	16.6	12.3	21.7	12.8
	計	362	350	193	130	92	1127
女性	調査可	82.9	83.2	85.3	81.0	71.9	82.0
	拒否	3.1	2.9	3.2	1.9	3.9	3.0
	不明	14.0	13.9	11.6	17.1	24.1	15.0
	計	508	446	380	216	203	1753

表3-4 性、年齢階級別にみた「ADL・生活の質」調査の状況

							(%)
		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	訪問調査	71.3	77.1	78.2	80.8	68.5	75.2
	電話調査	11.6	10.9	6.7	6.9	12.0	10.0
	その他	9.7	7.1	7.3	6.9	9.8	8.2
	不明	7.5	4.9	7.8	5.4	9.8	6.7
	計	362	350	193	130	92	1127
女性	訪問調査	73.8	78.0	75.5	73.1	68.5	74.6
	電話調査	13.6	8.7	10.3	7.9	7.9	10.3
	その他	7.3	6.5	6.8	11.6	7.4	7.5
	不明	5.3	6.7	7.4	7.4	16.3	7.6
	計	508	446	380	216	203	1753

表3-5 性、年齢階級別にみた家族形態の状況

							(%)
		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	独居	3.3	5.7	5.7	6.9	9.8	5.4
	高齢者夫婦	39.2	36.0	36.8	34.6	25.0	36.1
	二世帯同居	22.1	21.7	19.7	17.7	22.8	21.1
	三世帯同居	22.4	29.1	28.0	32.3	19.6	26.4
	その他	5.5	2.0	2.1	3.1	13.0	4.2
	不明	7.5	5.4	7.8	5.4	9.8	6.8
	計	362	350	193	130	92	1127
女性	独居	9.4	12.3	16.8	18.5	12.8	13.3
	高齢者夫婦	34.3	24.7	15.3	10.2	3.9	21.2
	二世帯同居	21.1	20.6	24.7	25.9	28.1	23.2
	三世帯同居	25.0	31.2	32.6	31.9	27.6	29.4
	その他	4.1	3.6	4.7	4.6	9.4	4.8
	不明	6.1	7.6	5.8	8.8	18.2	8.2
	計	508	446	380	216	203	1753

表3-6 性、年齢階級別にみたADLの状況(食事) (%)

		自立	半介助	全介助	合計
男性	65-69歳群	99.4	0.3	0.3	309
	70-74歳群	99.0	0.7	0.3	299
	75-79歳群	95.4	3.9	0.0	155
	80-84歳群	96.4	0.9	2.7	112
	85歳以上	85.9	9.9	4.2	71
	合計	97.3	1.8	0.8	946
女性	65-69歳群	99.8	0.2	0.0	421
	70-74歳群	97.8	1.3	0.8	371
	75-79歳群	98.8	0.3	0.9	324
	80-84歳群	96.6	2.9	0.0	175
	85歳以上	90.4	4.8	4.8	146
	合計	97.7	1.3	0.9	1437

表3-7 性、年齢階級別にみたADLの状況(排泄) (%)

		自立	半介助	全介助	合計
男性	65-69歳群	99.4	0.3	0.3	309
	70-74歳群	97.7	0.3	2.0	299
	75-79歳群	94.2	3.9	1.3	155
	80-84歳群	92.0	4.5	3.6	112
	85歳以上	80.3	8.5	11.3	71
	合計	95.7	2.0	2.2	946
女性	65-69歳群	99.3	0.5	0.2	421
	70-74歳群	98.4	0.5	1.1	371
	75-79歳群	98.1	0.9	0.9	324
	80-84歳群	96.4	3.4	0.0	175
	85歳以上	84.9	3.4	11.6	146
	合計	97.0	1.3	1.7	1437

表3-8 性、年齢階級別にみたADLの状況(着替え) (%)

		自立	半介助	全介助	合計
男性	65-69歳群	98.4	1.3	0.3	309
	70-74歳群	97.7	0.3	2.0	299
	75-79歳群	92.9	5.2	1.3	155
	80-84歳群	90.2	6.3	3.6	112
	85歳以上	81.7	4.2	14.1	71
	合計	95.0	2.4	2.4	946
女性	65-69歳群	98.6	1.0	0.5	421
	70-74歳群	97.6	1.3	1.1	371
	75-79歳群	98.1	0.9	0.9	324
	80-84歳群	95.4	3.4	1.1	175
	85歳以上	83.6	5.5	11.0	146
	合計	96.3	1.8	1.9	1437

表3-9 性、年齢階級別にみたADLの状況(入浴) (%)

		自立	半介助	全介助	合計
男性	65-69歳群	98.4	0.6	1.0	309
	70-74歳群	97.0	1.0	2.0	299
	75-79歳群	91.0	5.2	3.2	155
	80-84歳群	88.4	5.4	6.3	112
	85歳以上	73.2	12.7	14.1	71
	合計	93.7	3.0	3.3	946
女性	65-69歳群	98.6	0.7	0.7	421
	70-74歳群	97.3	1.1	1.3	371
	75-79歳群	96.0	2.8	1.2	324
	80-84歳群	90.3	7.4	2.3	175
	85歳以上	71.9	12.3	15.1	146
	合計	93.9	3.3	2.6	1437

表3-10 性、年齢階級別にみたADLの状況(屋内移動) (%)

		自立	補助具	半介助	全介助	合計
男性	65-69歳群	98.7	0.6	0.3	0.3	309
	70-74歳群	97.3	0.7	0.3	1.3	299
	75-79歳群	92.3	2.6	3.2	1.3	155
	80-84歳群	91.1	5.4	0.0	3.6	112
	85歳以上	71.8	12.7	8.5	7.0	71
	合計	94.3	2.4	1.4	1.7	946
女性	65-69歳群	98.6	0.5	0.5	0.5	421
	70-74歳群	96.8	1.6	0.5	1.1	371
	75-79歳群	95.7	2.8	0.3	1.2	324
	80-84歳群	94.3	3.4	1.7	0.6	175
	85歳以上	78.8	7.5	4.1	8.9	146
	合計	94.9	2.4	1.0	1.7	1437

表3-11 性、年齢階級別にみたADLの状況(屋外歩行) (%)

		自立	補助具	半介助	全介助	合計
男性	65-69歳群	97.4	1.3	1.0	0.3	309
	70-74歳群	94.6	3.0	0.7	1.3	299
	75-79歳群	89.7	3.9	2.6	3.2	155
	80-84歳群	82.1	8.0	4.5	5.4	112
	85歳以上	56.3	19.7	8.5	15.5	71
	合計	90.4	4.4	2.1	2.9	946
女性	65-69歳群	97.4	0.7	1.0	0.7	421
	70-74歳群	92.5	4.9	1.1	1.3	371
	75-79歳群	87.3	9.0	1.9	1.9	324
	80-84歳群	70.3	21.7	5.1	1.7	175
	85歳以上	55.5	23.3	4.8	13.7	146
	合計	86.3	8.5	2.1	2.6	1437

表3-12 性、年齢階級別にみたADLの状況(東京都老人総合研究所活動能力指標) (%)

		バスや電 車	日用品	自分で食 事	請求書	貯金の出 し入れ	年金等書 類	新聞読む
男性	65-69歳群	93.5	94.8	85.8	95.1	92.6	90.9	92.2
	70-74歳群	69.0	90.6	77.6	89.0	87.6	90.3	91.0
	75-79歳群	82.6	82.6	67.7	84.5	82.6	83.9	91.6
	80-84歳群	75.0	79.5	60.7	83.9	81.3	79.5	83.9
	85歳以上	49.3	50.7	39.4	57.7	54.9	54.9	69.0
	合計	84.8	86.4	73.8	87.3	85.2	85.5	89.0
女性	65-69歳群	95.2	96.9	96.4	96.2	95.2	94.1	91.2
	70-74歳群	88.1	92.5	95.4	93.5	92.2	88.9	85.4
	75-79歳群	79.6	88.9	92.3	91.4	85.5	80.9	81.2
	80-84歳群	57.7	74.3	68.0	67.4	65.1	63.4	63.4
	85歳以上	27.4	45.9	43.2	45.9	41.8	37.0	58.2
	合計	78.4	86.0	86.4	85.8	83.2	80.2	80.7

		本や雑誌 読む	健康に関 心	家を訪ね る	相談	見舞う	自分から 話しかけ る	合計
男性	65-69歳群	79.3	87.7	79.9	87.4	93.2	87.4	309
	70-74歳群	75.6	86.3	70.2	82.6	86.3	81.9	299
	75-79歳群	66.5	83.2	64.5	71.0	83.2	78.1	155
	80-84歳群	62.5	78.6	58.0	59.8	76.8	69.6	112
	85歳以上	40.8	57.7	39.4	46.5	45.1	64.5	71
	合計	71.1	83.2	68.7	76.8	83.8	80.3	946
女性	65-69歳群	80.0	94.1	85.3	89.1	95.2	90.3	421
	70-74歳群	71.7	90.8	82.2	83.0	90.8	88.7	371
	75-79歳群	64.5	88.0	76.5	77.2	86.7	83.3	324
	80-84歳群	53.7	73.1	58.3	56.6	66.9	69.7	175
	85歳以上	45.2	59.6	42.5	38.4	45.9	63.0	146
	合計	67.6	85.8	74.9	75.7	83.7	83.0	1437

表3-13 性、年齢階級別にみた東京都老人総合研究所活動能力指標の平均値  
(13点満点)

		65-69歳群	70-74歳群	75-79歳群	80-84歳群	85歳以上	合計
男性	n	309	299	155	112	71	946
	平均値	11.6	11.0	10.2	9.5	6.7	10.6
	標準偏差	2.6	3.0	3.5	4.1	4.5	3.5
女性	n	421	371	324	175	146	1437
	平均値	12.0	11.4	10.8	8.4	5.9	10.5
	標準偏差	2.0	2.6	3.0	3.9	4.3	3.5



表3-14 現在の生活に全体としてどの程度満足しているか

		どちらでも					不明	合計
		満足	まあ満足	ない	やや不満	不満		
男性	65-69歳群	34.6	49.2	4.9	2.9	2.9	3.6	309
	70-74歳群	32.8	49.8	6.7	3.3	2.7	2.0	299
	75-79歳群	35.5	44.5	7.1	3.2	1.3	7.1	155
	80-84歳群	29.5	48.2	6.3	3.6	0.9	7.1	112
	85歳以上	23.9	32.4	11.3	1.4	4.2	21.1	71
	合計	32.8	47.3	6.4	3.1	2.4	5.4	946
女性	65-69歳群	38.2	50.6	5.2	3.3	1.2	1.0	421
	70-74歳群	38.8	48.5	5.1	2.2	0.8	3.0	371
	75-79歳群	40.7	43.5	6.2	3.4	2.2	2.5	324
	80-84歳群	44.0	41.1	2.3	3.4	2.9	3.4	175
	85歳以上	45.9	26.0	5.5	4.1	2.1	12.3	146
	合計	40.4	44.8	5.1	3.1	1.6	3.3	1437

表3-15 現在、あなたは幸福だと思いますか

		ままああ思				不明	合計
		はい	う	どちらでもない	思わない		
男性	65-69歳群	48.9	38.8	4.2	2.6	3.6	309
	70-74歳群	44.1	41.8	4.7	4.0	2.7	299
	75-79歳群	46.5	35.5	7.7	1.9	7.1	155
	80-84歳群	40.2	42.9	2.7	2.7	7.1	112
	85歳以上	26.8	35.2	7.0	2.8	22.5	71
	合計	44.3	39.4	5.0	3.0	5.7	946
女性	65-69歳群	50.6	40.9	5.2	2.1	0.7	421
	70-74歳群	53.4	33.7	6.2	2.7	2.7	371
	75-79歳群	53.1	35.2	4.6	3.1	2.5	324
	80-84歳群	50.9	33.7	4.0	5.7	2.9	175
	85歳以上	47.3	27.4	4.1	3.4	13.0	146
	合計	51.6	35.5	5.1	3.1	3.1	1437

表3-16 「生きがい」や「生活のはり」「いきいきと生きているな」と感じることはありますか

		感じる				合計
		ある	ときどき	ない	不明	
男性	65-69歳群	67.0	23.3	4.9	2.9	309
	70-74歳群	65.6	21.1	6.7	4.0	299
	75-79歳群	58.1	21.9	11.6	7.1	155
	80-84歳群	44.6	27.7	11.6	10.7	112
	85歳以上	32.4	23.9	11.3	26.8	71
	合計	59.8	22.9	7.8	6.7	946
女性	65-69歳群	69.6	23.0	5.2	1.7	421
	70-74歳群	64.4	23.2	6.5	4.0	371
	75-79歳群	61.1	23.5	9.9	4.0	324
	80-84歳群	49.1	28.0	14.9	4.6	175
	85歳以上	41.1	21.2	15.8	17.8	146
	合計	61.0	23.6	8.8	4.8	1437

表3-17 性、年齢階級別にみた既往歴の状況

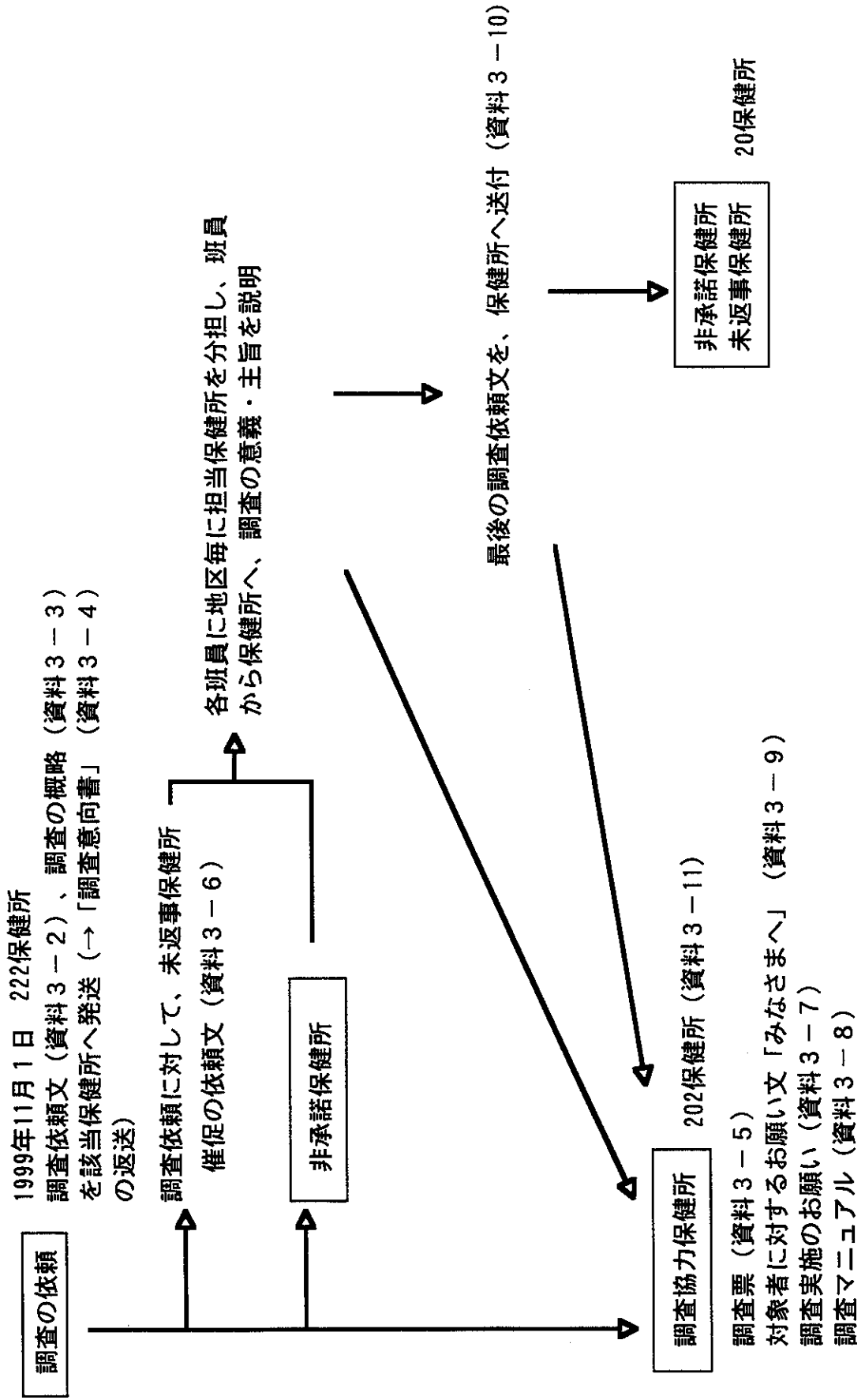
		既往歴				合計
		脳卒中	心筋梗塞	大腿頸部骨折	その他の下肢骨折	
男性	65-69歳群	6.8	4.2	1.9	7.8	309
	70-74歳群	6.4	4.3	0.7	7.7	299
	75-79歳群	13.5	5.8	3.2	9.7	155
	80-84歳群	17.0	10.7	3.6	8.0	112
	85歳以上	15.5	4.2	2.8	9.9	71
	合計	9.6	5.3	2.0	8.2	946
女性	65-69歳群	2.4	2.6	1.7	6.4	421
	70-74歳群	4.6	1.1	1.1	7.0	371
	75-79歳群	5.6	5.2	1.2	5.6	324
	80-84歳群	8.6	2.3	5.7	5.7	175
	85歳以上	7.5	4.8	10.3	6.8	146
	合計	4.9	3.0	2.8	6.3	1437

図1 「ADL・生活の質」調査チャート

1999年度

1999年9月

全国保健所長会で、調査の主旨説明、調査協力を依頼  
所長会で承諾を得る (資料3-1)



平成 11 年 10 月 30 日

各保健所長 殿

全国保健所長会  
会長 川元 孝久

時下、貴職におかれては益々ご清祥のことと存じます。

さて、この度、平成 11 年度厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）において、「国民の代表集団による高齢者の ADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究」が実施されることとなりました。

この研究に関しましては、平成 6 年度に同対象地域において調査等が実施され、その時に貴保健所でご協力をいただいているところです。去る 9 月 21 日に開催されました「全国保健所長会理事会」で、主任研究者（滋賀医科大学福祉保健医学講座 上島弘嗣教授）から本年度の調査協力の依頼と説明があり、了承を致しました。つきましては、同研究の実施に関して、主任研究者より貴職所管の保健所に対して調査の協力依頼があった場合には、ご配慮の上ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成11年11月1日

保健所

先生

厚生科学研究費補助金「国民の代表集団による高齢者の  
ADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究」  
主任研究者 上島 弘嗣

前略

この度、平成11年厚生科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)の助成を受け、「国民の代表集団による高齢者のADL、生活の質低下の予防に関するコホート研究(NIPPON DATA)」研究を行うことになりました。

そこで、平成6年にご協力いただいたことに引き続き、本年も保健所の先生方には是非ADL・生活の質調査へのご協力をお願いしたいと思います。なお、この研究は、去る9月21日に開催されました「全国保健所長会理事会」で調査協力の承諾をいただきました。

図にお示しましたように、昭和55年(1980年)循環器疾患基礎調査受診者のうち、平成6年(1994年;14年後)の追跡において生存が確認された方を対象に、今年度19年後の追跡を実施するものです。今年度の調査は、1994年時の生存者全員を対象とした生死の追跡と、1999年8月現在65歳以上の生存者に対して、ADL・生活の質の調査を実施する計画です。

調査の概略を別紙にお示します。この研究への参加のご意向をお聞かせ願いたいと思いますので、同封いたしました返信用ハガキにご回答をいただいた上、11月12日(金)までにご返送いただきますようお願い申し上げます。

もし、ご意見、ご質問等ございましたら、以下の事務局へご連絡下さい。

草々

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学福祉保健医学講座

教授 上島 弘嗣

(事務局;喜多 義邦)

電話 077-548-2191

FAX 077-543-9732